

平成28年度 厚生労働科学研究費補助金事業

# 認知症政策研究



公益財団法人 長寿科学振興財団

# 認知症政策研究とは

認知症の人の視点に立ち、認知症の人の意志が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができるような認知症高齢者等にやさしい地域づくりに資することを目標とし、医療・介護・予防などが一体的に提供可能なシステムなどに関するエビデンスやモデルを提供できる研究を行います。

(1) 認知症の地域包括ケア体制に関する研究

(2) 医療・介護機関における認知症患者の医療・ケア等実態に関する研究

(3) 認知症の発症に対する危険因子の提言や保護的因子の促進に関する研究

(4) 認知症の社会的課題の解決、特に徘徊の課題に関する研究

(5) 介護者等の負担軽減、認知症の普及・啓発などを含めた、社会創生に関する研究

## 認知症政策研究推進事業とは

当財団では、厚生労働科学研究費（認知症政策研究）の採択課題の研究を支援するため、次の事業を行っています。この公募の案内は、関係する研究者に通知するとともに財団のホームページ（<https://www.tyojyu.or.jp>）にも掲載しています。

### ●外国人研究者招へい事業

当該分野で優れた研究を行っている外国人研究者を招へいし、海外との研究協力を推進する事業。

### ●外国への日本人研究者派遣事業

研究代表者又は研究分担者と同一機関に所属する若手日本人研究者を外国の研究機関に派遣し、当該研究課題に関する研究を実施することにより、我が国における当該研究の推進を図る事業。

### ●リサーチ・レジデント事業（若手研究者育成活用事業）

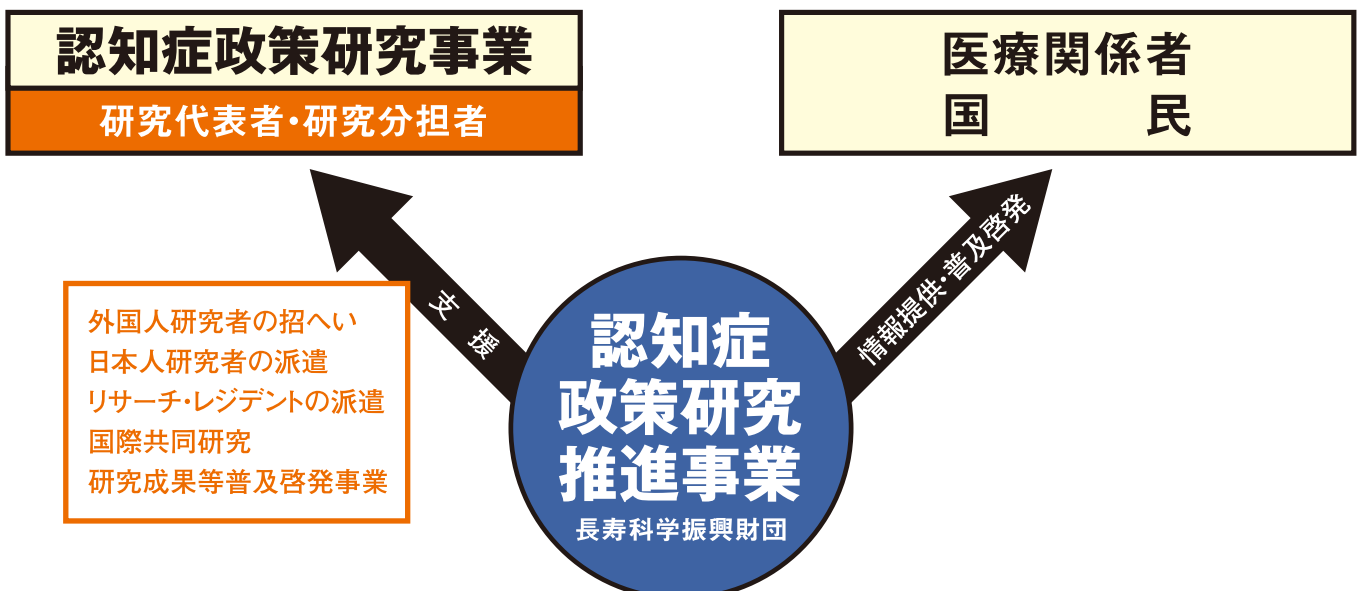
研究代表者又は研究分担者の所属する研究機関に当該研究課題に関する研究に専念する若手研究者を一定期間派遣し、当該研究の推進を図るとともに、将来の我が国の研究の中核となる人材を育成する事業。

### ●国際共同研究事業

外国人研究者と日本人研究者が共同で、当該研究に係る国際共同研究を取り組むことにより、当該研究の推進を図る事業。

### ●研究成果等普及啓発事業

当該研究の研究成果等について、関係の深い分野の専門的研究を行っている研究者や専門的な知識を持たない一般の国民を念頭に置いた発表会の開催及び当該研究事業の取組みを分かり易くしたパンフレットを作成することにより、当該研究の一層の推進と科学技術に対する国民の理解の増進、関心の喚起に資することを目的とする事業。

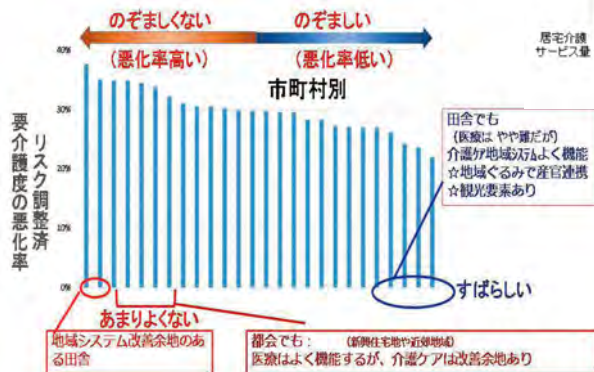


# 厚生労働科学研究費補助金による研究内容の一部を紹介します

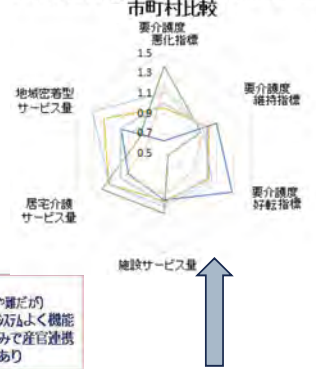
## 認知症の介護・医療地域体制の実態・課題の可視化と系統的把握方法の研究開発

### 認知症の介護・医療地域体制の実態・課題の可視化と系統的把握方法の研究開発

要介護度悪化状況をリスク調整して計測し、ケアの質を把握。



要介護度変化と介護サービスのパターン



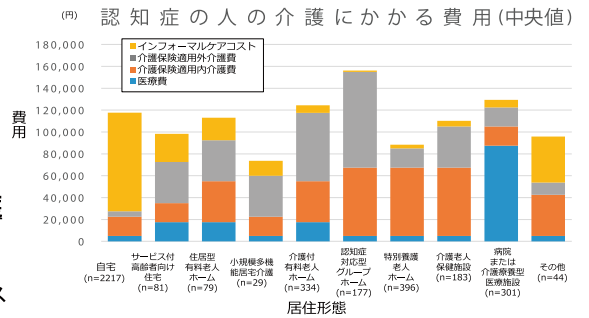
### 要介護度変化と介護サービスのパターン (市町村比較)

地域による介護サービス別利用傾向の違いと要介護度変化を可視化。

### 介護・医療地域体制における認知症の人の介護に係る負担額の実態・内訳(居住形態別)

認知症患者及びその家族のケアの負担を、個々の患者の特性に応じて、居住形態別に可視化。

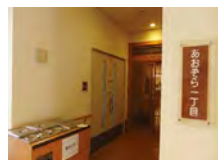
(家族等によるケアを含む [インフォーマルケア])



認知症増悪予防のための売店設置の例



ユニット型特別養護老人ホームの例



デイサービスのケア空間の一例



従来型特別養護老人ホーム空間の例

### 居住形態とのインタラクションも重視

今中 雄一 | 京都大学大学院医学研究科医療経済学分野教授

## 麻酔方法が術後認知機能に与える影響についての研究

### 研究の背景

#### 高齢者手術と術後認知機能障害※1

- ※1 術後認知機能障害: 認知機能(判断や計算・理解・学習・思考などを含む脳の高次の機能)が手術前より低下した状態
- 高齢者人口の増加と高齢者に対する手術適応の拡大に伴い、高齢者手術が増加している
- 高齢者では手術後の認知機能障害の発生率が高い
- 術後認知機能障害を認めた患者では、手術後に元の生活に戻る事が困難になるだけでなく、入院期間の延長や手術後の死亡率が増加すると報告されている
- ➡ 高齢者では術後認知機能障害が大きな問題となる

#### 術後認知機能障害に影響を与える可能性のある手術中の要因

- 麻酔方法による影響(全身麻酔 vs. 局所麻酔)
- 麻酔薬剤の影響
- 手術中の意識の有無による影響
- 手術中の血圧や体温
- ➡ 麻酔方法や麻酔薬剤の選択と、術後認知機能障害の関連については明らかではない

### 目的

- ✓ 術後認知機能障害の少ない麻酔方法の決定
- ✓ 術後認知機能障害を予防する周術期管理の確立

### 研究の方法

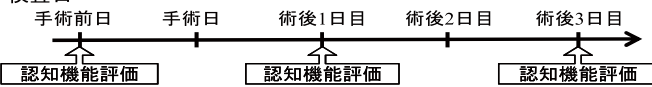
#### 麻酔方法の選択

- 高齢者の麻酔方法として選択されることの多い脊髄くも膜下麻酔(脊髄麻酔)での術後認知機能障害についての研究が少ない
- ➡ 脊髄くも膜下麻酔が術後認知機能に与える影響についてまず検討を行う

#### 術後認知機能障害の評価

- 確立された評価方法はない
- 本研究ではPQRS※2を用いて評価
- ※2 PQRS(postoperative quality of recovery scale): 認知機能を含む術後回復の質を評価するスケール

#### 検査日



### 研究の結果(～2016年3月)

- 平均年齢 76.6±6.9歳
- 術後3日目までに23.7%が術後認知機能障害と診断された(術後1日目:13.2% 術後3日目:13.9%)
- 術後認知機能障害のリスク因子とされている麻酔時間・アルコール摂取歴・喫煙・糖尿病・高血圧・高脂血症・教育歴については、明らかにリスク因子とは確定できなかった

- 脊髄くも膜下麻酔単独で麻酔管理を行った場合でも術後認知機能障害を認める事も多い
- 退院後の生活についても配慮する必要がある

#### 今後の検討課題

- 他の麻酔方法(脊髄くも膜下麻酔+鎮静や全身麻酔)が術後認知機能に与える影響についての研究

## 公益財団法人 長寿科学振興財団とは

本財団は、国立長寿医療研究センターの設置とともに、国の「高齢者保健福祉推進十か年戦略」の重要な柱として位置付けられ、各界からの幅広いご支援のもとに、我が国の長寿科学研究を側面から支援する財団として、平成元年12月に設立されました。

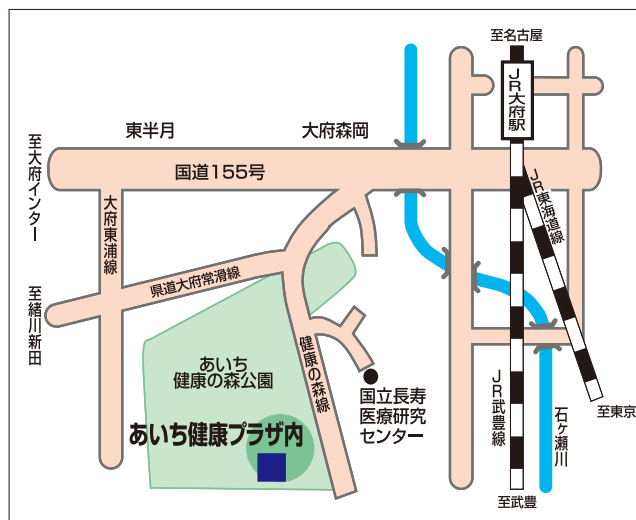
本財団には、昭和天皇の一周年祭にあたり、天皇陛下・皇太后陛下から、長寿科学研究推進に資する恩賜により、昭和天皇の御遺産から、更に平成13年4月には、香淳皇后の御遺産から御下賜金が賜与されました。

世界一の長寿国である我が国において、長寿科学研究の振興は、極めて重要な事業であることから、厚生労働科学研究の各種推進事業の遂行に努力し、これからも『明るく活力ある長寿社会』の構築に、貢献して参ります。



公益財団法人 長寿科学振興財団

<https://www.tyojyu.or.jp>



公益財団法人 長寿科学振興財団

〒470-2101 愛知県知多郡東浦町大字森岡字源吾山1番地1

あいち健康の森 健康科学総合センター4階

TEL.0562-84-5411 FAX.0562-84-5414

E-mail:soumu@tyojyu.or.jp